徳島県立文学書道館　書道特別展

没後30年

小坂奇石と現代書道二十人展

2021年

6月18日(金)～8月9日(月・振休)

関連イベント

●トーク「小坂奇石の素顔」
6月27日(日)
13:30～14:30
講師／木本南邨
（璞社参事、高野山大学名誉教授）
申込必要（先着80人）

●展示解説
7月10日(土)、8月4日(水)
11:00～11:30
講師／立石充（当館学芸員）
申込不要、観覧券必要。

●トークの申込方法
はがき、FAX、メールのいずれかに「小坂奇石展 トーク」と明記の上、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を記入し、当館までお申し込みください。当館1階受付でも申し込めます。

主　催　徳島県立文学書道館
後　援　徳島県教育委員会 徳島新聞社
NHK徳島放送局 四国放送

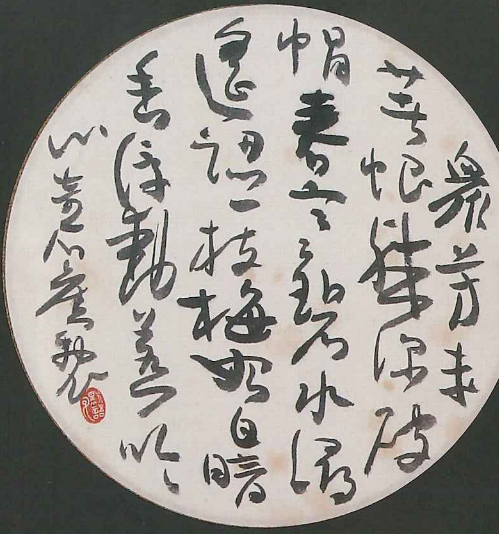
会　　場　徳島県立文学書道館
1階 特別展示室・ギャラリー
開館時間　9:30～17:00
休 館 日　月曜日
（ただし8月9日は開館）
観 覧 料
一般 520円(410円)
高校・大学生 360円(290円)
小・中学生 260円(200円)
(　)内は20人以上の団体割引料金。
小・中・高校生は土・日・祝日・夏休み期間中は無料。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

言の葉ミュージアム
徳島県立文学書道館
〒770-0807　徳島市中前川町2丁目22-1
TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540
メールアドレス kotonoha@bungakushodo.jp
ホームページ http://www.bungakushodo.jp

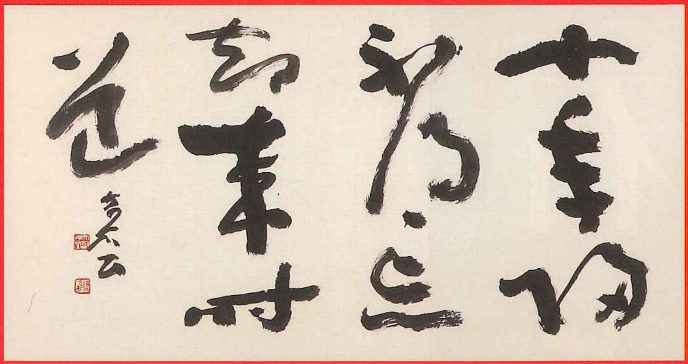
日本を代表する20人の書家が新春に新作を発表する展覧会「現代書道二十人展」。小坂奇石は56歳の時の第1回から36年間にわたり同展のメンバーに選ばれ、作品を発表しました。

没後30年にあたり、当館所蔵の16点のほか、村上三島記念館、リーヴスギャラリー小坂奇石記念館、大阪ガス株式会社、株式会社墨運堂と個人が所蔵する23点の合わせて39点を展示します。

奇石が特に心血を注いだ現代書道二十人展の作品をぜひご覧ください。



「自作詩　探梅之詩」64歳（個人蔵）

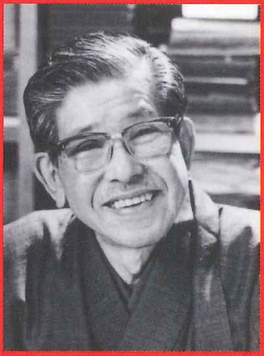


「寒山詩句」83歳（大阪ガス株式会社蔵）

〈 現代書道二十人展 〉

朝日新聞社が主催する現役書家による選抜展。日本芸術院会員や文化功労者、文化勲章受章者、日本芸術院賞受賞者など、日本を代表する書家20人が会派を超えて一堂に最新作を発表する。

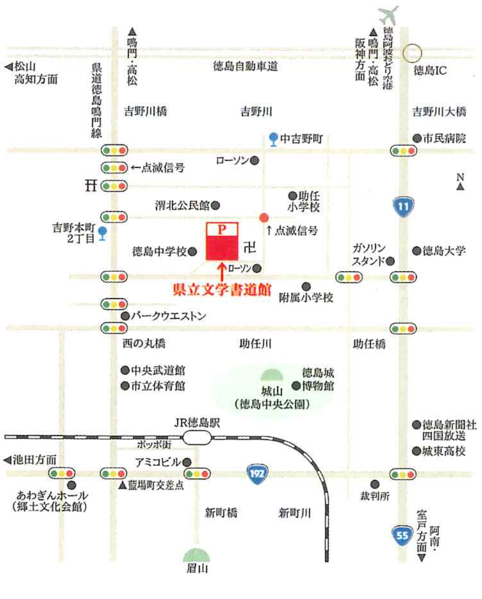
1957年に第1回展が開催され、今年で65回を迎えた。新春の東京展を皮切りに主要都市を巡回している。



小坂（こさか） 奇石（きせき）　1901～91年

徳島県海部郡美波町出身。少年期に阿部捉龍に、その後、黒木拝石に師事。書道研究「璞社（ぼくしゃ）」を設立。長年勤めた大阪ガスを定年退職後、奈良教育大学などで教鞭（きょうべん）を執った。日展で文部大臣賞、書家として初めて日本芸術院恩賜賞・日本芸術院賞を受賞。「書の本質は線にある」とし、“線の行者”として知られた。

第9回現代書道二十人展の会場で記念撮影をする出品者。前列左から2人目が奇石



●交通アクセス（JR徳島駅から）

徒歩　約15分
ＪＲ徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つの信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。

バス
〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線（右回り）」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。
〔徳島バス〕2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。

タクシー・自動車　約5分
国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。当館北側に駐車場があります（43台・大型バス2台）。

●展示のごあんない

書道企画展
「中林梧竹と海老塚的伝
―親交から生まれた書」
6月15日(火)～9月26日(日)

作品募集のお知らせ

第6回　書道創作グランプリ
―手本のない“実力”作品展

7月1日(木)～9月8日(水) 必着

募集要項は当館ホームページをご覧ください。当館でも配付しています。